

令和7年度学校経営報告			八王子市立中山中学校		
学校の教育目標			校訓「自主 創造 協力」 よく勉強し、よく働き、そしてよく鍛える生徒		
目指す学校像			「楽しい学校 誇れる学校」 生徒が自らの進路を自らの手で切りひらく力を育成する学校		
今年度の重点課題についての成果と課題	①生徒理解に基づくさらなる生徒指導	・「チーム中山」として教員、地域(学運協)、保護者が協同して、生徒との交流活動(サロン「風」、花一輪運動、夏祭り出店等)を行い、互いに顔の見える関係性を作ることができた。 ・いじめの早期発見、早期対応できるよう、学期1回のアンケート、二者面談等に加え、いじめ対策委員会では、全校体制での対応策を考え実践していた。 ・校内委員会では、特別支援教育と不登校対策の会議を隔週で行う。全校体制で情報収集し、毎回SC、特別支援教育専門員、不登校対応巡回教員から助言をもらい、個別の対応策の作成を行った。実際に対応した後振り返りを行った。			
	②「わかる実感」「できる喜び」をどの子にも味わわせる取組	・ICT機器を活用し、個に応じた振り返り学習を行った。また、実技教科では、自己の学習状況を撮影し、その映像を見ることで技能向上に向けて振り返りを行う。また、他者との共同的な学び愛はすべての教科で行った。 ・適正な学習評価を目指し、学習指導要領の趣旨を踏まえた校内研修を行った。特に第3観点については、各教員が校内研修会後には工夫している姿が見られた。ただ、その見取りについてもまだ課題があり、次年度も研修を続けていく。 ・放課後学習教室や質問教室、自習室を年間を通して開設した。特に自習室は学力強化週間に学年単位で実施、自主的に学習する生徒の数が増えてきている。次年度も実施していく。			
	③自己有用感や自己効力感等、自尊感情を育む活動	・生徒主体の学校行事(体育祭、音楽祭、修学旅行、移動教室、校外学習等)で、生徒は自分たちのアイデアを持ち寄り活動を行うことで、自己有用感や集団の一員であることの満足感(所属感)を味わった。次年度も構成的グループエンカウンターについての教員研修を踏まえ、自己有用感や所属感をより味わせるよう学級経営を充実させていく。 ・「自分たちのことは自分たちでやろう」という呼びかけの下、生徒会・委員会活動において当事者意識をもって、企画・立案・実施をしていた。生徒会執行部や各種委員会委員が一般生徒たちから出た疑問や問題を吸い上げ、丁寧に対応している姿がよく見られた。 ・学運協主催の「花一輪」活動に各学級代表生徒が参加し、校内の各所に花を生ける活動を協働で行った。青少対挨拶運動や地域町会主催のお祭りに生徒が多数参加し、地域の大人と関わる教育活動ができた。2年の職場体験では18か所の事業所に協力をいただき、キャリアに対する意識を高める教育活動ができた。			
	④八王子市の方針に基づく部活動改革の推進	・11月中旬から1月末までウインタータイムを実施し、広域部活動や学校外での活動、また、校内での放課後活動が暗くなる前に十分できるよう時間を確保した。生徒に好評であった。 ・部活動のロードマップに沿って、部活動の集約を図った。本年度インドアスポーツ、アウトドアスポーツを立ち上げ、2つの部に1年生27名が参加している。一方、軟式テニス、バドミントン、野球の各部は新規募集を行わなかった。次年度はこの3つの部活が終了する予定。 ・生徒の健全な居場所づくり、保護者・地域の連携拠点として、学運協主催の「風」の活動を開始した。月に1、2回実施している。生徒の参加は1年生が多く、毎回10名以上がこのサロンで、多様な活動を行っている。次年度も継続して行っていく。			
領域	経営	短期的経営目標	具体的な取組の状況		評価指標の達成状況
主体的に学び、勉強し、行動する生徒	○基礎・基本の定着	基礎・基本の定着	・年間を通して数学と英語の習熟度別指導を実施し、個に応じた指導を展開した。 ・学力強化週間における質問教室、自習室の開設、週3日の放課後学習教室(国・数・英)を実施した。 ・4人の学校サポーターを組織的に活用し月～金まで個別に支援が必要な生徒への対応にあたった。		◎学校は授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT機器(の活用などの工夫に取り組んでいる…保護者アンケート65%以上⇒ 88% …生徒アンケート60%以上⇒ 96% ○学習活動に対する評価は適切・公平である …保護者アンケート80%以上⇒ 85% …生徒アンケート60%以上⇒ 93% ◎放課後学習教室、質問教室等の開催状況…計画通り実施 ◎学習用端末の持ち帰り及びドリルコンテンツの活用状況 …日常的に持ち帰り、ドリルや長期休業中の課題に活用 △はちおうじっ子ミニム達成状況…再チャレンジにより努力賞も合わせて卒業生に授与。 ○英語検定、漢字検定の受験状況…予定通りの回数実施
	○思考力、判断力、表現力等及び学ぶ意欲の向上	学習習慣の定着	・学校運営協議会の主催による英語検定(2回)、漢字検定(2回)を実施した。 ・一人一台の学習用端末を日常的に持ち帰り、家庭学習におけるドリルコンテンツの活用を図った。		
		学習意欲の向上	・「わかる実感、できる喜び」を目指した授業改善のため、管理職による授業観察を実施した。 ・各教科及び総合的な学習の時間において、ICT及び1人1台の学習用端末を活用した授業を展開した。 ・1学期末、適正な評価について校内教員研修を実施した。1学期初め、2学期初めに生徒に対して、学習評価のポイントについて各教科で説明を行った。		
互いを認め、よく働き、支え合う生徒	○主体性、協調性、思いやりの心の醸成	いじめへの組織的、計画的な対応	・「中山中いじめ防止基本方針」に基づき、「ふれあい月間」「いじめ・いやがらせアンケート」等、いじめの早期発見、対応を図る取組を年間を通して行った。 ・いじめ対応の時間(月曜)、校内いじめ対策委員会(木曜)を定例開催し情報共有、組織対応を行った。 ・心の週間や二者面談、各学級の日記指導を実施し、大人に相談しやすい環境をつくった。 ・「SOSの出し方に関する教育」「いじめ防止プログラム」を実施、いじめの未然防止を図った。		◎研修会の実施…Q-U研修2回(8月、12月) …いじめ防止研修3回(6月、11月、2月) …アンガーマネジメント(9月) ○学校(先生たち)はいじめの未然防止への取組、いじめの早期発見、早期対応等いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる …保護者アンケート70%以上⇒ 82% …生徒アンケート80%以上⇒ 85% ◎中山中の子供たちは楽しそうに学校生活を送っている …保護者アンケート85%以上⇒ 85% ◎毎日の学校生活が楽しい…生徒アンケート80%以上⇒ 85% ◎子どもの学級では授業や学校行事に意欲的に取り組むよう、指導が行われている …保護者アンケート80%以上⇒ 88% ◎先生たちは落ち着いて学習できる学級づくりに取り組んでいる …生徒アンケート85%以上⇒ 88% ◎情報モラル教育の実施 …セーフティ教室(5月)、メディアリテラシー学習(3月)
	○規範意識と社会性の育成	安心できる居場所づくり	・楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U(年2回)を活用し、生徒一人一人が安心して学校生活を送れるよう学級経営を充実させるために講師を招いた校内研修会を年2回実施した。 ・生徒主体の生徒会活動、学校行事を実施し、はちおうじっ子サミットに向けた取組、体育祭、音楽祭、修学旅行、移動教室等、生徒の所属感や自尊感情、リーダーシップを育む取組を行った。		
		社会や集団におけるルールとマナー	・年間通してノーチャイムを実施し、生徒が自主的・自律的に規則正しい生活を送れるよう働きかけた。 ・各学年学級において、係や班活動などを工夫し、生徒の自主的、自律的な取組を展開した。 ・セーフティ教室(全学年)、情報モラル教育(2年)を実施しSNSルールを確認、トラブル防止を図った。		
夢をもち、よく鍛え現る生徒	○自ら進路を切りひらく力の育成	体力向上・健康増進、安全教育	・体力テストや調査の結果を体育の指導に活かし、生徒の実態に即した授業を展開した。 ・保健だよりの毎月発行を通して、健康増進への意欲を喚起した。 ・避難訓練(毎月)、救急救命講習、いのちの教育(赤ちゃんふれあい授業、八王子いのちの大切さを共に考える日等)を実施した。		◎学校は児童・生徒が安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。…保護者アンケート70%以上⇒ 97% …生徒アンケート80%以上⇒ 95% ○3学年が赤ちゃんふれあい授業を、1学年が救急救命講習を受講した。 ◎学校は「はちおうじっ子 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来についてのキャリア教育を行っている。 …保護者アンケート70%以上⇒ 98% …生徒アンケート70%以上⇒ 95% ◎学校(先生たち)は学習環境の整備や清掃活動に取り組んでいる …保護者アンケート80%以上⇒ 85% …生徒アンケート80%以上⇒ 90% ◎三者面談の取組 …夏季休業中(全学年)と12月(3学年、1.2学年の希望者)に実施 ◎特別支援教室の運営における連携 …毎週の校内委員会で情報共有
	○自己肯定感・自己有用感の醸成	キャリア教育の充実	・総合的な学習に時間において、1年で職業調べ、2年で職場体験とジョブトーク、地域と連携した体験的な学習を実施し、3年時に自らの進路を自分で決定できるよう系統的なキャリア教育を実施した。 ・3学年において保護者と生徒が同席する形の進路説明会を2回開催した。 ・3階フロアに自習室を設置し、自ら学び学力を向上させようとする生徒を支援した。 ・はちおうじっ子キャリア・パスポートに担任がコメントを記入し、生徒が自らの成長を振り返り将来を展望できるよう家庭と連携して指導した。		
		教育相談・特別な支援体制の充実	・毎週木曜に教育相談部会を定例開催し、SC、SSWや関係機関と連携して保護者や生徒の相談に組織的に対応した。別室登校等についてもきめ細かく対応した。 ・特別支援コーディネーターや特別支援専門員を通して小学校やあじさい教室と連携した支援を行った。		
地域に愛される学校	○家庭・地域との連携	家庭・地域との連携開かれた学校	・ホームページや学校だよりを適時更新・発行し学校の様子を発信することができた。 ・学校運営協議会を10回開催し年間を通して学校の課題解決に資する意見交換を行うことができた。 ・青少対、近隣小学校と連携し、学期に1回の「あいさつ運動」を継続した。 ・青少対クリーン作戦(10月)に生徒が参加予定が雨天のため中止、 ・地域自治会の夏祭りにボランティアとして生徒が多数参加。		◎学校は地域運営学校として、地域とともにある学校づくりを推進している …地域アンケート90%⇒90% ◎学校が力を入れて行っている取り組み(あいさつの励行等)について知っている …保護者アンケート85%以上⇒97% ◎自分は学校が力を入れて行っている取組(あいさつの励行等)を知っている …生徒アンケート85%以上⇒ 96% ◎近隣の小学校と一緒に行う取組について知っている …保護者アンケート90%以上⇒ 97% 、 生徒アンケート80%以上⇒ 80% ◎学校は、保護者(地域)に対して適切に情報発信を提供している …保護者アンケート80%以上⇒ 95% 地域アンケート70%以上⇒91% 96
	○小中一貫教育の充実	小中一貫教育の推進	・3校経営会議を開催、中山小学校・高嶺小学校とともに育てたい児童・生徒像を共有した。 ・年3回の授業参観と研究協議、1学期に部活動紹介、引渡し訓練、夏休みに部活動見学、2学期に職場体験、3学期に小学生体験授業等を行い、教職員・児童・生徒の交流を図った。 ・小学生部員を募集し、バスケットボール部と陸上競技部で2学期から週に1回ずつ活動した。		
		サービスの厳正 教職員のライフ・ワークバランス	・年間3回の服務事故防止研修と職員会議、職員朝会等で服務事故を起こさないよう、年間を通じて注意喚起と指導を行った。 ・学校閉庁日、ノー残業デーの実施、C4thの活用を通して職員の意識向上を図り、保護者、地域の理解を促進した。		
次年度の重点課題			①中山中学校グループにおける小中一貫教育の推進(児童・生徒交流の活性化、高嶺小学校の研究を3校で共有する、健全育成上の連携) ②生徒理解に基づく生徒指導の充実(いじめへの組織的対応、不登校へのきめ細やかな支援、Q-Uの活用) ③「わかる実感」「できる喜び」を味わわせる授業改善、キャリア教育の充実(個別最適な学びと協働的な学び、ICTの日常的な活用、適正な学習評価、「さくら祭り」に向けた活動) ④生徒の自尊感情を育む教育活動の充実(生徒主体の学校行事、生徒会及び委員会活動の一層の充実、構成的グループエンカウンターを活用した学級経営) ⑤本校の校風「文武両道」を高める教育活動の推進(部活動改革、地域と連携した安心安全な居場所づくり、週2.7コマ授業及びウインタータイムの効果的な運用)		